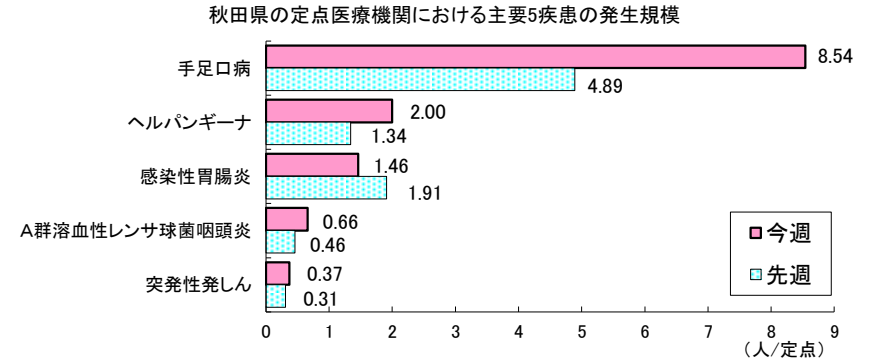




**【第31週の発生動向】**

＜定点把握対象疾患(週報)・前週比＞

1. 手足口病は、県全体で1.7倍に増加しています。保健所別では、全ての保健所で増加しています。
2. ヘルパンギーナは、県全体で1.5倍に増加しています。保健所別では、大館、北秋田、能代、秋田中央、由利本荘、横手、湯沢で増加、秋田市、大仙で減少しています。
3. 感染性胃腸炎は、県全体で24%減少しています。保健所別では、大館、北秋田、湯沢で増加、秋田市、能代、秋田中央、大仙、横手で減少しています。



**発生報告**

＜五類定点対象疾患(週報)＞

(人/定点)

疾患名	秋田県			秋田市			大館			北秋田			能代			秋田中央			由利本荘			大仙			横手			湯沢				
	第30週	第31週	増減	第30週	第31週	増減	第30週	第31週	増減	第30週	第31週	増減	第30週	第31週	増減	第30週	第31週	増減	第30週	第31週	増減	第30週	第31週	増減	第30週	第31週	増減					
RSウイルス感染症	0.11	0.11		0.29	0.14	↓		0.25	↑						0.50		↓							0.67	↑							
インフルエンザ																																
咽頭結膜熱	0.11	0.20	↑	0.29	0.14	↓									0.25		↓	0.25	0.75	↑							0.75	↑				
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.46	0.66	↑	0.57	0.14	↓	0.25		↓		0.50	↑		0.33	↑	1.50	1.25	↓	0.25	0.50	↑	0.75	0.50	↓	0.33	↑	0.25	2.50	↑			
感染性胃腸炎	1.91	1.46	↓	2.43	2.14	↓	1.75	2.25	↑	2.00	2.50	↑	3.00	1.00	↓	3.25	1.75	↓				2.00	0.50	↓	1.33	1.00	↓	1.25	1.75	↑		
水痘	0.20	0.03	↓				0.75		↓	1.50		↓			0.25	0.25																
手足口病	4.89	8.54	↑	10.86	13.43	↑	7.50	13.25	↑	2.50	15.00	↑			3.33	4.00	↑	2.25	5.00	↑	3.75	8.00	↑	2.75	5.00	↑	4.33	6.33	↑	0.50	4.75	↑
伝染性紅斑	0.14	0.09	↓	0.43	0.29	↓	0.50	0.25	↓																							
突発性発しん	0.31	0.37	↑	0.43	0.43			0.25	↑	1.50	2.50	↑	0.67	0.33	↓		0.25	↑	0.25	0.25		0.25	0.25				0.25		↓			
ヘルパンギーナ	1.34	2.00	↑	3.14	2.00	↓	0.25	0.50	↑		3.00	↑	2.67	5.33	↑	0.25	3.00	↑	1.00	1.25	↑	1.00	0.50	↓	2.00	3.33	↑	0.25	0.75	↑		
流行性耳下腺炎		0.06	↑																				0.50	↑								
川崎病	0.03		↓																0.25		↓											
急性出血性結膜炎										*	*		*	*		*	*										*	*				
流行性角結膜炎	0.57		↓	1.33		↓				*	*		*	*		*	*									*	*					
細菌性髄膜炎	0.13		↓												*	*					1.00		↓									
無菌性髄膜炎															*	*																
マイコプラズマ肺炎	0.13	0.13													*	*						1.00		↓				1.00	↑			
クラミジア肺炎(オウム病を除く)															*	*																
感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)															*	*																

(注) 表の数値は、観測定点としている県内の医療機関から報告された患者報告数を、1定点あたりに換算した人数を示し、前週と比べて「↑」は増加を、「↓」は減少していることを示します。  
 「\*」印は、当該疾病に関わる定点医療機関が指定されていないことを、空欄は全ての定点で当該週における患者の報告数がなかったことを示します。



発生報告

<全数把握対象疾患>

- ・二類感染症の結核が秋田市保健所管内から2人、由利本荘保健所管内から2人、報告されました。
- ・三類感染症の腸管出血性大腸菌感染症が秋田市保健所管内から4人、横手保健所管内から1人、報告されました。
- ・五類感染症の水痘(入院例に限る)が秋田市保健所管内から1人、梅毒が秋田市保健所管内から1人、百日咳が秋田市保健所管内から2人、北秋田保健所管内から2人、秋田中央保健所管内から1人、報告されました。

<全数把握疾患>

類型	疾患名	(人)		
		1週-30週 全国	秋田	31週 秋田
一類	エボラ出血熱			
	クリミア・コンゴ出血熱			
	痘そう			
	南米出血熱			
	ペスト			
	マールブルグ病			
	ラッサ熱			
二類	急性灰白髄炎			
	結核	12222	58	4
	ジフテリア			
	重症急性呼吸器症候群			
	中東呼吸器症候群			
	鳥インフルエンザ(H5N1)			
	鳥インフルエンザ(H7N9)			
三類	コレラ	3		
	細菌性赤痢	54	1	
	腸管出血性大腸菌感染症	1616	12	5
	腸チフス	19		
	バラチフス	11		
四類	E型肝炎	307	2	
	ウエストナイル熱			
	A型肝炎	268	7	
	エキノコックス症	11		
	黄熱			
	オウム病	11		
	オムスク出血熱			
	回帰熱	1		
	キャサヌル森林病			
	Q熱			
	狂犬病			
	コクシジオイデス症	1		
	サル痘			
	ジカウイルス感染症			
	重症熱性血小板減少症候群	60		
	腎症候性出血熱			
	西部ウマ脳炎			
タニ媒介脳炎				
炭疽				

類型	疾患名	(人)		
		1週-30週 全国	秋田	31週 秋田
四類	チクングニア熱	11		
	つつが虫病	81	5	
	デング熱	182		
	東部ウマ脳炎			
	鳥インフルエンザ(H5N1、H7N9を除く)			
	ニパウイルス感染症			
	日本紅斑熱	106		
	日本脳炎			
	ハンタウイルス肺症候群			
	Bウイルス病			
	鼻疽			
	ブルセラ症	2		
	ベネズエラウマ脳炎			
	ヘンドラウイルス感染症			
	発しんチフス			
	ポツリヌス症	1		
	マラリア	26		
	野兔病			
	ライム病	7		
	リッサウイルス感染症			
リフトバレー熱				
類鼻疽				
レジオネラ症	1159	10		
レプトスピラ症	6			
ロッキー山紅斑熱				
五類	アメーバ赤痢	499	4	
	ウイルス性肝炎(E型及びA型を除く)	191		
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1130	10	
	急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く)	47		
	急性脳炎	556	4	
	クリプトスポリジウム症	8		
	クロイツフェルト・ヤコブ病	102		
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	553	3	
	後天性免疫不全症候群	671		
	ジアルジア症	26		
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	352	2	
	侵襲性髄膜炎菌感染症	27		
	侵襲性肺炎球菌感染症	2164	12	
	水痘(入院例に限る)	280	7	1
	先天性風しん症候群	3		
	梅毒	3781	13	1
	播種性クリプトコックス症	88		
	破傷風	71	2	
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症			
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	46		
百日咳	9774	110	5	
風しん	2039	3		
麻しん	668			
薬剤耐性アシネトバクター感染症	18			

トピック

<手足口病とヘルパンギーナが流行しています>

秋田県内も梅雨明けし、夏本番を迎えています。例年、この時期にはエンテロウイルスを原因とする手足口病やヘルパンギーナといった、いわゆる“夏かぜ”が全国的に流行します。今年は、5月中旬頃から西日本を中心に手足口病の流行が始まり、その後、徐々に全国へと拡大し、7月としては過去10年間で最も大きな流行となっています。秋田県も全国から2ヶ月ほど遅れて流行が始まり、第31週には定点あたり患者数が8.54と県全体で警報レベルに達しました(図)。集団発生も、第30週以降9件報告されています。また、ヘルパンギーナの流行も同時に見られることから、今後の発生動向に注意してください。

■症状

40℃近い高熱とともに、のどの奥に水泡や潰瘍が現れます(ヘルパンギーナ)。また、水泡は手足等、身体にも出現することもあります(手足口病)。のどの強い痛みのため飲食が困難になることもありますので、脱水等を起こさないように注意が必要です。患者の多くは1週間程度で回復しますが、中には無菌性髄膜炎を併発する場合があります。

■予防

患者のつばや便に排出されたウイルスを、手指を介して鼻や口から摂取してしまうことで感染します(接触感染)。回復後も2~4週間はウイルスの排出が続きますので、日常的な手洗いを心がけましょう。また、エンテロウイルスには多くの型があるため、一度治っても違う型に感染を繰り返す場合があります。感染した事がある人も油断せず、予防に努めましょう。

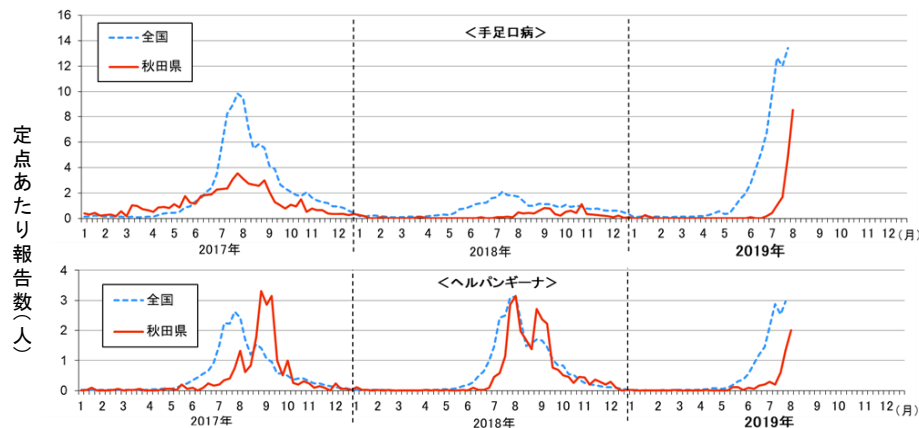


図 手足口病とヘルパンギーナの定点あたり患者数の推移(全国2019年第30週、秋田県31週現在)

感染症の集団発生報告

手足口病の集団発生報告が6件ありました。

所在地	施設名称	報告日	有症者数			把握期間	症状
			利用者(園児、入所者等)	職員	計		
鹿角市	花輪さくら保育園	7/29	170名のうち12名	45名のうち0名	12名	7/22 ~ 7/29	発熱、発疹
大館市	大館八幡こども園	7/29	167名のうち17名	40名のうち0名	17名	7/25 ~ 7/29	発熱、発疹
秋田市	ナーサリーふじ	7/29	124名のうち11名	32名のうち0名	11名	7/27 ~ 7/29	発疹
横手市	下鍋倉保育所	7/30	112名のうち14名	26名のうち0名	14名	7/17 ~ 7/30	発熱、発疹、食欲低下
横手市	相髪保育園	7/30	120名のうち10名	27名のうち0名	10名	7/26 ~ 7/30	発熱、発疹、鼻水、食欲低下
北秋田市	しゃる一む	8/2	124名のうち10名	42名のうち0名	10名	7/26 ~ 8/2	発熱、発疹



**【注意報・警報の発生状況】**

疾患名	注意報	警報
	保健所(発生規模)	保健所(発生規模)
手足口病	-	秋田市(13.43)、大館(13.25)、北秋田(15.00)、秋田中央(5.00)、由利本荘(8.00)、大仙(5.00)、横手(6.33)

■ 注意報・警報の定義

**【注意報・警報の定義】**

- 1) 注意報: 流行の発生前であれば今後4週間以内に大きな流行が発生する可能性があることを示し、流行の発生後であればその流行がまだ終わっていない可能性がある(終息していない)ことを示します。
- 2) 警報: 大きな流行の発生・継続が疑われることを示します。

対象疾患	注意報			対象疾患	警報		
	基準値(人/定点)	開始基準値(人/定点)	継続基準値(人/定点)		基準値(人/定点)	開始基準値(人/定点)	継続基準値(人/定点)
インフルエンザ	10	30	10	伝染性紅斑	-	2	1
咽頭結膜熱	-	3	1	ヘルパンギーナ	-	6	2
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	-	8	4	流行性耳下腺炎	3	6	2
感染性胃腸炎	-	20	12	急性出血性結膜炎	-	1	0.1
水痘	1	2	1	流行性角結膜炎	-	8	4
手足口病	-	5	2				

■ 保健所地域

保健所	所管市町村	保健所	所管市町村
大館保健所	大館市、鹿角市、小坂町	由利本荘保健所	由利本荘市、にかほ市
北秋田保健所	北秋田市、上小阿仁村	大仙保健所	大仙市、仙北市、美郷町
能代保健所	能代市、藤里町、三種町、八峰町	横手保健所	横手市
秋田中央保健所	男鹿市、潟上市、五城目町、八郎潟町、井川町、大潟村	湯沢保健所	湯沢市、羽後町、東成瀬村
秋田市保健所	秋田市		